

1. ねらい

- ・日本の児童・生徒が制作した版画作品を鑑賞することによって、そのよさを感じ取ったり日本の文化を知ったりする。
- ・実際に日本の子どもたちと交流する機会はないが、日中子ども版画展という場で作品を通して交流する。

2. 流れ(45分)

時間	活 動	備 考
5	○それぞれの感じ方が違い、それがよいということに気付く。 ○み方について、近くからみたり遠くからみたりすると気づくことが違うことを知る。	・岡本太郎の作品《こどもの樹》の一つ一つの子どもの表情が違うこと、《太陽の塔》にタイトルを付けるとしたら、など感じ方は人それぞれであることを話す。 ・《太陽の塔》は背面にも顔があることから様々な視点からのみ方について話す。 
5 ～ 10分	○気に入った作品、気になる作品はあるかな。	・付箋(15枚)を付けてもらおう。残ったら持って帰ってもらおうとよい。 ・「友達と話しながらいいね」と声をかける。 ・「どうしてこれ？」と問いかける。  

20～ 25 分	○付箋が多くついたものを中心に対話をする。 ○テーマ、版種についてガイドンスをする。	・「なぜこの作品なのかな」と投げかける。 ・疑問に思ったこと、質問の内容をもとに→出なかったら一緒に回りながら ・テーマー遊び、行事、生活などと合わせて ・版種ーステンシル版画、彫り進み版画、スチレン版画について取り上げる 
5 ～ 10 分	○個人でみる	・友達と話しながら見ると楽しい ・新たにみつけたこと、不思議なことが出てきたら遠慮なく話しかけてもらうようにする。

3. 活動後

- ・時間をかけて日本の児童版画作品をみてもらえたのが大変うれしかった。
- ・付箋を一つの作品にすべて貼ってしまうお子さんもいた。「なぜ？」と聞いたら「ひとめぼれ」だそう。



付箋が多く
付いていた
作品



- ・感覚的に受け止めているようだった。
- ・「色がきれい」という感想が多かった。
- ・表現方法より作品としてみていたようだ。

